

第1回 長野県新型インフルエンザ等対策懇談会

日時 令和6年8月8日(木)

14:30~16:00

場所 県庁議会棟第2特別会議室

1 出席者

構成員 中村吉秀(県社交飲食業生活衛生同業組合副理事長)、中村実彦(県旅館ホテル組合会長)、駒谷嘉宏(県索道事業者協議会)、大川敦(JR東日本長野支社企画総務部経営戦略ユニットユニットリーダー)、松井道夫(県バス協会専務理事)、上沢英雄(タクシー協会専務理事)、金井一彦((株)デリシア店舗運営・販売本部スーパーバイザー)、竹内善彦(県社会福祉協議会常務理事)

長野県 小野消防課長、中田副参事兼課長補佐

2 内容

(1) 長野県新型インフルエンザ等対策懇談会について

懇談会の開催趣旨、体制等について説明

(2) 新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について

- ・政府行動計画の改定内容について

…資料1

資料1-1~1-3 を説明

- ・本県行動計画の改定について

…資料2

資料2-1、2-2 を説明。構成員から聴取した主な意見は以下のとおり。

(中村実座長)・感染症の種類によって有効な対策が異なる。整理をしながら今後に備えていくことが大事。

- ・一番苦労したことはマスク不足への対応。入手するため奔走した経験など後継のために引継いでいきたい。

(駒谷構成員)・スキー場従業員の検査に対する補助は有難かった一方で、検査施設へ検体を送る際に運送会社や郵便で送るのが難しいため、やりやすい方法があるとよかった。

- ・スキー場従業員は寮に入っているケースが多く、集団感染が懸念されたが、体調不良者が出ると保健所が寮まで検査をしに来てくれ有難かった。
- ・体調不良者を保健所へ送る際の安全な仕組みづくりが必要。
- ・ワクチンの全額補助があると、従業員に対して働きかけやすい。

(中村吉構成員)・感染対策の確認を行う事業(信州の安心なお店)を国、県、市、保健所などそれぞれの機関で行っていた。各々で認証ステッカーを作るので小さいお店は掲示しきれない。内容は同じなのだから、統一的なものをつくるなどすべき。各機関連絡調整をしていく必要。

(松井構成員)・明確な根拠はないが人流の抑制を行ってきた。他の産業に比べるとまだ戻っていない。

- ・人命を守るため抑制する状態から、どのように経済活動や生活交通を支えると

いう実際の動きに転換していくのか、見極めが大変難しかったと思う。

- ・宿泊業や飲食業と異なり、直接の休業補償がなかった。
- ・エッセンシャルワーカーとしてワクチン接種を早期に接種できたことについては比較的配慮していただけた。

(上沢構成員)・タクシーが公共交通だという認知度が低い。濃厚接触者等が移動にタクシーを利用しないよう、行動計画に盛り込んでいただきたい。

- ・ワクチンの集団接種はありがたかった。
- ・業種ごとのガイドラインを共有していくことも必要と感じる。

(竹内構成員)・項目 13 に雇用への影響に対する支援や生活の支援もいれてはいかが。

・非常事態宣言や人流抑制を行う際に、実際の現場にいる事業者さんから意見を聴ける場を設け、また専門家懇談会のように制度化すればもう少し有効な手段をとれるかもしれない。

(金井構成員)・非常に助かったのは圏域ごとの警戒レベル。県全域にお店があるが、一斉に同じ対応をとるのではなく、エリアごとに対策を強化、緩和することができた。今後の感染拡大時にも詳細な警戒レベルを設定していただけると参考に動ける。

(大川構成員)・交通インフラは重要なインフラと考えている。感染拡大防止対策のなかで今後も交通インフラに携わる人に優先順位を与えていただければ。

(3) 本県の新型コロナウイルス感染症対応の振り返りについて …資料 3

資料 3-1、3-2 を説明

(4) その他

今後のスケジュール等について説明